

## 戦中、戦後、貧困 の中の子ども時代

森下 加代子  
(香川県小豆郡)

太平洋戦争の始まった1941年に、岡山県の西の端広島県に近い里庄町で生まれ、そこで15歳まで育つた。

おじいちゃんに抱かれて東の空が真っ赤で、堤に家族みんなが身を寄せてガタガタ震えながら見た、あれは水島の空襲だったのだ。

配給の足袋が、三保ちゃんと愛ちゃんには当たり、私は外れて悲しかった。

8歳上の長兄と歩いていた時、兄に突然頭を押さえられ断片的でしかない。

ここからは戦後  
小学校入学は1948年4月、3年生から4年生の頃から学校に持っていくお金がないで、登校前に母に連れられ親せきに借りに行き、小言を言われながらも借りて持つていぐ、みじめだった。

日常の煮炊きは、松の落ち葉を使っていた。無産者の我が家は山がないので、日が暮れてから母と2人で近くのよその山の落ち葉を拾いに行つた。後ろめたかったが、そうするより他なかつた。母に「私が大きくなつたら山を買つてあげるね」と度々言つた。

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

## 寄稿 私の戦争体験

<28>

た。

中学生になると、クラス男女2人づつ選ばれて、夏休み(?)があった。なぜか制服ではなかったので、着ていく服など買えるわけもなく、白いカーテンの布でフレンチ(袖なし)の服を作つて着て行つた。

4歳上の姉は結核で医療保護を受けた。その頃は生活保護家庭は高校進学はできなかつた(?)。でも15歳の私が身を粉にして働いたとしても、わが家の貧乏は救えないと確信していた。巷では春日八郎の「お富さん」が一世を風靡していた。10歳下の末弟は、姉のおさがりの赤いズボンをはかされ、「オトミタノ」と歌つていた。

朝鮮戦争の特需で景気は良くなつていたのかもしれないが、わが家の暮らしは一向に良くならなかつた。貧しい者は戦争が終つても、なかなか立ち直れなかつた。

私は貧乏が大嫌いだ。清貧なんてウソだ。戦争は貧乏と無縁ではない。戦争そのものは終つても、戦後もそれと同様に人を苦しめる。

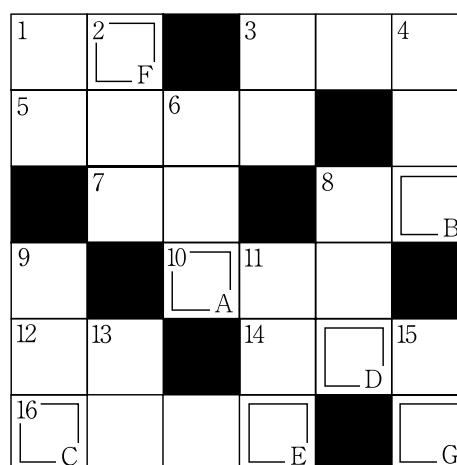
私にとっての戦争は、戦後によく自覚できる。それは人として成長するのと同じ時代だつたから。戦争も貧乏も命をおびやかす。基本的人権を侵す最たるもののが戦争。そして、戦争前夜も戦争中も戦後も。戦争は大きな傷を国民に負わせた。

## お楽しみクイズ

### クロスワードパズル

- 応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、あて先／〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。
- しめきり／2019年4月10日(水)消印有効
- 当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード500円分)を。賞品の発送をもつて発表に替えていただきます。
- クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただくことがあります。ご了承ください。

力ギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



● 1月号の答  
「ナナクサガユ(七草がゆ)」  
● 応募数／98通

## 編集後記

お詫びと訂正  
「とも」2月号の川柳欄に作者名の誤りがありました。関係者の皆さま、読者の皆さまに、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申

し上げますとともに、訂正させていただきます。  
〔三流だカジノ狂奔福祉減〕の作者は安東利彦さんではなく、堺谷九条男さんでした。

## 平和の尊さを引き継いでいくために 戦争体験をお寄せください

機関紙編集委員会では、戦争を知らない世代に平和を受け継いでいくためにも、戦争体験を募集しています。戦後73年目を迎え、戦争の経験者が少なくなつていて戦争体験が語られることも少くなり、貴重なものとなっています。編集委員会に寄せられるお手紙にも戦争体験は多くの反響があります。

お寄せいただいた戦争体験を冊子にまとめて、形に残していくことも検討しています。

ぜひ読者の皆さんに戦争体験をお寄せください。寄稿される方は800字位を目安にお願いします。

お問い合わせ

友の会事務局 (TEL) 072-244-8061